

支那に行はれた文學、淡酒な書風・清雅な墨繪を將來し得たのみならず、又寺院制度をも輸入して五山十刹を設置し、安國寺利生塔を建立し、更に唐様の茶會が日本化され喫茶の風習までも將來した事を言つた點や、來朝明人のために鏤刻の業が異常に進歩した事、歸化明清人が我が醫學に貢獻した事を力説した點は、また本書の長所であらう。

政治方面に關しては、忽必烈が我國に送つた國書は決して單なる和親修交のみのもではなく、我國に對する威嚇であり暴戾であるとして栢原氏の説に反對した點、天龍寺船に入明僧の便乗するものも多く、また彼地の高僧を招致する事も、當時交通の一目的であつたと言へる點等、列舉に遑がない。なほ、入元僧一覽表とか日明使節來往一覽表の如き一覽表を隨所に入れ、卷末に年表並索引を附せられた事は讀者をして理解を容易ならしめる事極めて大であつて、著者の周到なる用意に感謝するものである。たゞ望蜀の言を許さるゝならば、蒙古襲來が我國精神に與へた影響さか、倭寇と秀吉の海外經營との

關係さか、對清貿易によつて輸入せられた西洋文明さか、いふ方面——それは本著の直接目的ではないにしても、一言それらに觸れてほしいと思はれたし、また宋元文明の輸入に際して、「無盡」の如き經濟策の將來せられた事も教示してほしかつた。(菊版六七三頁、索引二三頁、口繪九葉、價五・八〇、東京金刺芳流堂發行)〔以上中村〕

●高島郡志

滋賀縣高島郡教育會編

近江高島郡志一冊分て三篇とす。地誌、沿革、郡治これなり。本文一一三頁寫眞二十二枚、地圖一葉より成る。嘗ては中江藤樹淺見綱齋馬場正通等の先覺を生める郷土は其全き姿に於て世に示されたるなり。三浦博士の序に「よく本郡に於ける古來各方面の沿革を提要し殊に藩治時代の煩瑣なる税制、人口の増減、明治以來の急激なる變革等に至る迄微を穿ち細を析ちて歴史的本郡の眞面目を描寫す」といへるもの必しも過譽といふべからず思ふに本郡の如きは湖山の間狭小なる地積を占め山地

平地湖面の三者近く相接す。かゝる土地の住民が生活形態はいかに地形と關係するや又藩治時代一村にして六藩に分轄されたるが如き複雑なる行政上の分離關係はいかに事實上の隣係關係と交錯し影響せしや等種々興味ある問題は本書によりてその解決を求むる事容易なり。而もこれらの問題は又日本國民が過去に於ける生活様式の一類型を示すものとして單に本郡の問題たるに止まらざるべきなり。(菊版一、一三一頁、非賣品、印刷實費一〇・〇〇、滋賀縣高島郡教育會發行)(肥後)

● 飛驒史料 維新前後之一

岡村 利平編

本書は編者が選史備用の爲め飛驒國に關する太古より明治に至る史料を集めたるもの、内、元治元年正月より明治元年六月中旬に至るまでの部分を印刷に附したもので、編次の體裁は『大日本史料』に倣ひ、事を以て次第に日历年に係け、毎條の首に綱文を置き次に史料原文を列載せるものである。編者は愛郷の念強く、四十年來熱心

に飛驒史料を蒐集研究しつゝある上で、隨つて本書所載の史料は多方面に亘り可なり豊富であつて、明治維新前後に於ける此國の狀況を知らんごする者は本書に依つて多大の便益を受けるこゝか出来る。但し聊か氣附いた點を云へば、史料として舉げられたもの、中に雜誌の記述或は年表を其儘引載してあるこゝで、例へば明治元年正月九日條及び四月十八日條の『歴史地理』、三月九日條の『明治大年表』の如きがそれで、是れ等を強ひて引載せんごならば参照の部に入れた方がよからう。又明治元年五月二十四日田安家達をして徳川宗家を繼がしめ、是日駿河府中に封する條の史料として『明治大年表』だけを擧げてあるのは其事が直接飛驒國に關係がない故かも知れぬが、綱文を立てる以上は、やはり太政官日誌其他もつゞ確實なものを引載された方がよからう。それらは兎に角吾人は斯くの如き多數の史料を蒐集編次された編者の努力に對しては十分の敬意を表し、第二以下諸編の續刊を切望する。(菊版八〇六頁、飛驒史談會刊行、價七・〇〇)